源遠く訪ひくれば 瓔珞みがく石狩り の

原始の森は闇くして 雪解の泉玉と湧くゆきげ いずみたま ゎ

鈴蘭薫る谷間にも

サザラルかを
たにま 浜茄子紅き磯辺にもはまなすあかいそべ

蝦夷の昔を懐ふかな 愛奴の姿薄れゆく

北斗に強き黙示あり Ŧī.

狂瀾さわぐ今し今 風の名残のつきやらでかぜ、なごり 陽光はうららかに 輝 けど 醜雲消えて人の世に

吾が皇軍を思ひては 月も凍らむシベリアのっき に暮るる西の空

今円山の桜花

建てし功はいや栄ゆ

猛けき心の躍らずやた こころ おど

その 絢爛 れ集ふ四百 の花霞

健児が希望深ければ のぞみふか の

踏みて拓かむわが前途 白銀狂ふ埋れ路じるがねくる。うもし はろけき牧場に嘯け

+

雲影はやし草の波

ば

く 唇がる 想を秘めし若人が

かたくほほゑみつ

羊蹄山に雪潔しょうていざん ゆききょ 仰げば高く聳え立つ
がおれる

置 塩寄 君 作 佐藤

雄

君

作 Ж 歌